

特 259

244

七騎落

昭和改訂版
外十五



始



七騎落

(梗概) 源頼朝伊豆に兵を擧げて事成らず、石橋山に敗れて主従八人小船よつて遁れんとす、然るに八騎といふ数は、祖父爲義にも父義朝にも不吉の例あれば、頼朝之を忌み、一人下船すべしと命ず、土肥次郎實平は、何れを見ても誠忠の士のみなれば選み出さん術なく、當惑し、艦に在りける岡崎義實に下船せよといふ、義實怒りて命二つある人より下りよといふ、其謂を問へば昨日一子真田與市義貞討死して今は命一つとなれり、土肥殿は親子共に船に在りて命二つありと答ふ、實平理に服して強て子の遠平を下船せしむ、陸には敵兵間近く寄せたり、眼前我が子を敵の手に委するかと實平の心中を一同も哀に思ひ乍ら船を急がす所に、和田小太郎彼の遠平を救ひ、後より追ひ來りて一行に加はり、茲に頼朝再擧の端を開くこと、なりぬ。



シテ 土肥次郎實平
 ツレ 源頼朝
 ツレ 岡崎義貞
 立衆 五人
 子方 實平の子遠平
 ワキ 和田小太郎
 季 秋
 所 伊豆海上の船中

七騎首

刻^上 身を控^上小船^上うきみてもく^上もな
 手^上や浮^上舟^上ある^上覚^上ん^上日^上平^上の^上舟^上漢^上佐^上頼^上
 船^上へ^上お^上も^上ま^上の^上か^上石^上橋^上山^上の^上合^上戦^上よ^上ら^上ち
 ま^上け^上餘^上り^上に^上味^上方^上に^上舟^上あり^上あ^上れ^上ば^上一^上先^上舟^上
 國^上の^上あ^上ひ^上ひ^上と^上な^上い^上ら^上ふ^上出^上た^上の^上

君此法為父の命をば背くを清船
 よまゝおつるおなひ 日本一のくんと
 い者一白よさし一ころひてくまふ

あつる^{こまひ}誓^いはせし君の法門出よ^デ堪^んじる^ま実
 平比^{へいひ} 一^しく^くふ^ふも^もま^まら^らあ^あま^まの^のち^ち
 て^てら^らお^お論^{ろん}お^お海^{かい}一^しく^くも^もあ^あら^らあ^あら^らん

よ^よつ^つま^まあ^あつ^つて^て思^し成^{じやう}世^よは^はさ^さち^ちあ^あら^らん
 一^しく^くも^もあ^あら^らん^ん一^しく^くも^もあ^あら^らん^ん何^{なに}と
 お^おま^まい^いふ^ふつ^つは^はら^らん^んも^もあ^あら^らん^ん今^{いま}く^くそ^そま^まら^らん^んあ^あら^らん^ん
 て^てら^らあ^あま^まあ^あら^らん^んよ^よ教^{かウキ}大^{だい}勢^{せう}あ^あら^らん^ん一^しく^くも^もあ^あら^らん^ん教^{かウキ}
 の中^{なか}へ^へま^まの^のく^く入^いよ^よま^ま大^{だい}お^おと^と討^た死^し一^しく^くも^もあ^あら^らん^ん名^な
 を^を後^ご代^{だい}よ^よよ^よく^く父^ふも^も名^なあ^あら^らん^ん是^これ^れな^なら^らん

そとよ上うく七て遠平上ありし七を七実
 平七お七母七に七系七り七た七れ七が七 立ゆ七く七る七あ七る
 実平七う七あ七と七 子よ七れ七を七お七ひ七や七り七親七子
 此七別七い七ら七し七や七 子未七父七の七名七お七の七中七に七及七せ
 君七を七始七め七ま七り七皆七は七名七残七し七を七惜七う七し七
目上は松浦七さ七よ七娘七が七ぐ七く七も七ろ七こ七し七船七を七
赤ヤア

慕七ひ七侘七く七 ヤラ 諸七よ七ひ七ま七外七し七み七程七を七今
 幸七平七が七親七と七子七此七別七よ七智七し七と七皆
子源七を七を七流七し七ける七 子契七程七な七た七る七お七母
 ち七を七志七を七し七と七し七ふ七も七し七ひ七あ七入七を七初七を七見
上そ七り七た七ら七ま七あ七ら七 上ち七や七幸七ひ七ら七は七浦七の
 波七立七ま七り七れ七り七み七程七を七 子よ七の七人七を七も七ん

一日 あまをみる 母れらちお

同下 実平のひまをみるよのげをみるえい

ときく申ころ入るんをたもせきく心強

くもち路よ 敵大勢入るころきくや

幸平のうらむるとして 彩船もあるま

陸をみる路くたをみるが 実 悲を北野も

只今を語りそとあひ実平の敵もよ
むろひ人志まは心のまゝあふふあま
幸平とあは討死せたらあこの
れを飛立をうらよ思ひ子れ別ぞ後
成をみる 弓張月のあれを
仍清定めぬ母路うあ あまをみる

志あぐら。先ただらつく。いぢをいんたをやと
 存ふ。いづくに和。田屋。中。い。田。目。と。も。た
 事。く。そ。出。身。あ。て。い。く。そ。い。と。田。目。も。あ
 き。い。の。い。と。ふ。い。さ。ん。い。の。時。日。此。書。程。よ。我
 君の清行。清をらん。失。ひ。中。う。あ。う。ふ。う
 う。れ。お。と。成。ご。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何

と。君。を。さ。そ。清。と。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何
 中。と。此。事。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何
 中。う。家。我。味。方。乃。陣。を。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何
 其。程。と。ま。る。程。船。よ。さ。い。く。離。れ。中。さ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何
 命。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何
 ひ。ま。り。里。腰。の。刀。よ。手。を。か。く。程。あ。い。ら。あ。つ。あ。い。い。よ。何

あき上

心あき上りまかくも中へ度はゆたき業を清
 らむばらまはそと報に今上りくも中へ
 さぬせしぐお肥屋より出物もさること
 上かへ一ききする母底より昔を平ひつ
 しそつんせされば永生時実平あまき
 清い 着うらうつらういふりふとて覺えん
 ヤラ

いまは付流あしり ね彼者をば何
 としてあつたにる陸からまきくしそ清いあ
 めくは中へ上りく けい清いあまて中
 上りまきほよてい ねとねの去肥の枚
 山乃合戦破まきくふだをぐも勢カ君
 を討まきくんとて大勢清よりうつて出

ぐれよ成ぬまきぶ月トの盛トよりトくトふ
ト上トのト後トせるトほトびト此ト ト上トのト酒ト

宴トうト如ト いうトよト実ト平ト。目ト初ト度ト拍トあトれ

一ト指トはト舞トひト ト上トのト心ト嬉トしトきト酒ト宴トひト舞

壺ト角トてト時ト日トをトめトぐトさトしトけトくト西ト國トの

ト兵トをト母ト系トまトれトをト程トあトくト清ト勢ト廿ト万ト

ツワモノ

騎トよト成ト給トひトつトたトあトぶトろトりトまトてト治トめ
 後トへトるトけト君ト此ト清ト代ト乃ト免トそトくトたトまト例トも
 実ト平ト多トしトきト忠ト勤トのト乃トよトしトるト実
 平トしトたト右ト勒ト此ト道トよトしトるト矢ト乃
 家トしト我ト久トしト年トま

著者權所有

昭和八年十二月十五日納本
昭和八年十二月二十日發行

定價金五拾錢

東京市下谷區上根岸町八十二番地

著作者 寶生新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

七

廿四

終

